

公益社団法人 日本オーケストラ連盟

平成 29 年 (2017 年) 度事業計画

第 6 期 平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで

1. 交響楽に関する調査研究及び資料、情報の収集

(1) 「日本のプロフェッショナル・オーケストラ年鑑 2017」の刊行

●文化庁「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」の企画競争・公募に申請中。

加盟するオーケストラのメンバー、活動の詳細な内容、財務状況、楽員や事務局員募集や人材育成の方法などを明らかにし、オーケストラ活動の総括として研究、分析の資料および聴衆にとってのガイドブックとするとともに、加盟するオーケストラの公益性や透明性を一層高めることに貢献する。この年度からオーケストラ活動の展望を専門家の執筆により掲載する事を予定する。

(2) 各種レポートの発行

この年度も交響楽の振興に関する事項やオーケストラ運営について調査し、また関連する資料や情報を収集しオーケストラの発展に努める。

(3) ライブラリアン会議、ステージマネジャー会議、チケット担当者会議の開催

加盟するオーケストラの楽譜やステージ設営の専門家だけではなく、関連する団体にも参加を呼びかけ、専門的な調査、研究と研修を行いオーケストラの発展はもとより、楽壇全体にたいしても寄与する。また、近年チケットの管理・販売に関して、専用のソフトウェアを導入している楽団が多くみられるが、情報の共有化を図り、購入者の利便性を高めるため、昨年度に引き続き担当者会議を開催する。

(4) 基礎資料作成の調査・検討

①オーケストラ活動の重要性、必要性を一層アピールする基礎資料を作成するための調査・検討を行う。

②「子供のためのオーケストラ検証」プロジェクトの第 2 段の実施

昨年度は加盟オーケストラが実施した音楽鑑賞教室等で体験した児童、生徒の生の声を数値化し分析したが、この年度は音楽に触れた幼少期から青少年に成長してゆく過程で音楽に触れたことにより、どのような変化があったかを成人式を迎えた青少年を中心に調査する準備に取り掛かる。

併せて、子どもたちの文化芸術体験の一層の充実に向けて調査、研究も例年通り行う。

2. 交響楽振興のための公演及び講習会等の開催

(1) 「オーケストラの日 2017」の催しの実施。

オーケストラの普及、浸透を図るため 3 月 31 日を「オーケストラの日」として、この日を中心

にその前後で加盟するオーケストラと共に演奏会や公開練習、バックステージ見学、楽器体験、指揮体験など様々なイベントを企画し、身近に親しんでもらう事を目的とし、オーケストラの存在意義を浸透させる。この年度より会場を上野の東京文化会館に移して実施する。

(2) 文化庁からの受託による「アジア オーケストラ ウィーク 2017」の制作。

●文化庁芸術祭主催公演の一環として開催される事業。企画競争・公募に応募予定。

アジア諸国からプロのオーケストラを複数招聘し、個性豊かな演奏の競演を実現し我が国とアジア諸国における文化交流を促進する。

10月5日(木)、6日(金)、7日(土) 東京オペラシティコンサートホール

8日(日) いわき市いわき芸術文化交流館アリオス(福島県)

上記公演日程を基に公募に応募する。

(3) 国際交流基金平成29年度文化協力/ASEAN オーケストラ支援事業を実施。

アセアン諸国のオーケストラに日本から経験豊かな年長者の専門家を1年間複数人派遣する。また、事前に派遣先のオーケストラからマネジメントスタッフを2週間程度、わが国に招聘し、国内のオーケストラで研修を行う。(今年度はマレーシアのマレーシア国立交響楽団と昨年引き続きベトナム・ホーチミン市交響楽団を予定している)

(4) 「日・タイ修好130周年記念公演」の開催業務を実施。

今年日・タイ修好130周年記念してタイ大使館が実施するバンコク交響楽団東京公演をサポートする。公演は9月26日にサントリーホールで実施する。

(5) 講習会、セミナー等の開催

交響楽に関して、また、取巻く諸課題などについて講習会やセミナーを開催してオーケストラの発展に努める。

(6) インターンシップの推進

インターンシップ制度は人材育成に貢献し、プロフェッショナル・オーケストラの運営に関して理解を広めるために重要である。当連盟が窓口となり、音楽大学を中心に一般の大学からも募集を受け、アートマネジメントなどを学ぶ学生がオーケストラで実地研修ができるよう加盟のオーケストラを紹介しサポートする。

(7) その他の活動

①日本音楽芸術マネジメント学会への参加

音楽芸術の振興や保護に係わるマネジメントや教育、政策に関する研究の推進のため積極的に参加する。

②アフィニス文化財団が開催する「アフィニス夏の音楽祭」に協力する。

8月19日(土)～27日(日) 広島市内

ホスト・オーケストラ : 広島交響楽団

③2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムに関する事項

クラシック音楽基幹団体で構成された「MUSIC NETWORK JAPAN」、「劇場・音楽堂等連絡協議会」、日本芸能実演家団体協議会、等の関連機関と連携し、実施に向けて検討する。

3. 青少年に対する交響楽の普及

(1) 「平成28年熊本地震」震災復興支援

昨年4月14日に熊本地方を襲った大震災から一年を迎える、この4月14日に現地の音楽愛好家有志が実行委員会方式で「熊本震災復興祈念復活公演」を計画している。この企画に賛同した九州交響楽団をホスト・オーケストラに連盟加盟の楽団も予定が許す限り参加しプロフェッショナルのオーケストラが一堂に会し、マーラー作曲交響曲第2番「復活」を演奏する。

(2) 東日本大震災復興支援コンサート

6年目を迎えた、東日本大震災の被災地の学校などに、加盟するオーケストラから楽員を派遣してコンサートなどを実施し心の復興に引き続き取り組む。また、被災地の要望により、統廃合で閉校となる学校の校歌を録音しCDに残す事業も行いたい。これらの支援事業は(公財)音楽の力による復興センター・東北と協力して実施する。

(2) 東京都が主催する「子どもたちと芸術家の出あう街」の制作に協力する。

オーケストラのみならず多様なジャンルの芸術家がワークショップやアウトリーチ活動などを通して、将来の芸術文化の担い手として子どもたちに芸術文化を身近に体験してもらうことを目的とした事業で、この実行委員会の一員として協力する。

2018年(平成30年)3月18日(日) 東京芸術劇場

企画・演奏: 日本フィルハーモニー交響楽団

4. 交響楽に関する国際交流

(1) 海外のオーケストラ連盟等との交流と情報収集を行う。

「アジア・太平洋地域オーケストラ連盟」(会長: 児玉幸治/日本オーケストラ連盟・理事長)の創設団体・会長団体として、アジア諸国のオーケストラと密接に交流を図り、情報を収集、その共有化に努力し、中核としての責務を果たす。平成30年(2018年)には上海でオーケストラ・サミットの開催が、昨年の東京サミットで決定している。

又併せて、従来通り欧米のオーケストラ機関とも連携を図る。

5. その他目的を達成するために必要な事業

(1) 「日本オーケストラ連盟ニュース」を発行する。 年3回。

オーケストラに関するニュース、トピックスや各種情報などを伝えるほか加盟するオーケストラの主催公演を一覧にしてコンサートガイドの役割も果たす。単なる機関紙としてではなく調査、資料収集等で得られた知見、情報も掲載する。

(2) 「日本のオーケストラ」を作成する。

加盟するオーケストラが公益目的事業の支援依頼などの際に活用できるよう、オーケストラの活動や運営の状況、公的支援の海外との比較などが一目で分かるパンフレットを作成する。

(3) 政府、国会への働きかけ

①実演芸術団体の理念に沿った自主的な活動を助成する助成制度に改革する活動を行う。

- ・多様、多彩な創造活動を促すために、芸術分野の特徴に沿った助成制度を開発し、助成予算の充実を目指す。

②文化芸術の振興を国家戦略の基本に位置づけ「文化芸術立国」の実現に向けて「文化省」の創設を求める活動を行う。

- ・世界に誇れる文化芸術を国民が楽しむ基盤を整え、成長を促し、世界に発信するため、内閣にあって主導性を発揮して文化関係施策の格段の充実・強化を図ることを担う「文化省」の設置を求め、我が国の文化芸術の価値を高めことを目指す。

③新公益法人制度について一部改正を求める活動を行う。

- ・「一般財団法人は二期連続して純資産が300万円未満になったときは解散。」とする法律の改正を求める。
- ・「収支相償の原則」の見直しを求める。

④税制改正の要望を引続き行う。

- ・「税額控除制度」のPST（パブリックサポートテスト）要件の撤廃を求める。
- ・寄附金控除の年末調整の対象化を求める。

(4) 他の実演芸術団体等との連携

芸術家会議、日本芸能実演家団体協議会（芸団協）、文化芸術推進フォーラムの一員として他の芸術団体や全国公立文化施設協会（公文協）などとも連携を図り、健全な文化芸術活動やオーケストラ運営ができる環境整備と充実に努める。また、アマチュア・オーケストラとの連携を図り、オーケストラの一層の裾野拡大に努める。

(5) その他

実演芸術の価値と魅力をより多彩に発信されるよう、新聞、放送などをはじめとする各種マスメディアの活用にも努める。

ホームページの内容を定期的に更新し、メンテナンスも併せて行い利用者の増加を目指す。

6. その他の事業（相互扶助等事業）

(1) 著作権代行事業

一般社団法人日本音楽著作権協会（JASRAC）との協定による、加盟オーケストラの使用する管理著作物の包括的申請と使用料の一括徴収と支払を行う。

(2) 共同広告事業

朝日新聞「音楽情報」欄へ加盟会員が出稿する広告の料金の一括徴収と支払を行う。

(3) 互助会事業

指揮者・小澤征爾氏、チェロ奏者の故ロストロポーヴィチ氏およびNHK交響楽団が無料出演したコンサートの収益金を原資に、病気や怪我で3ヶ月以上活躍できない加盟会員に所属する楽員、職員へ無利息での貸付制度による互助事業を行う。

公益社団法人 日本オーケストラ連盟

資金調達及び設備投資の見込み

第5期

平成28年(2016年)4月1日から

平成29年(2017年)3月31日まで

- | | |
|------------------|-----------------------------------|
| (1) 資金調達の見込みについて | 当期中に資金調達の予定はありません。 |
| (2) 設備投資の見込みについて | 当期中に重要な設備投資(除却又は売却を含む。)の予定はありません。 |

以上